

名事研ニュース

No.165

名古屋市立小中特別支援学校事務研究協議会 <http://meijiken.sakura.ne.jp/>

今年度は、オンラインによる定期総会が行われました。その結果、令和4年度事業・決算報告、令和5年度事業計画、予算案等が承認され、今年度の名事研事業がスタートしました。

あゆみをとめない～変わる学校に新たな価値を創造する学校事務～ 会長 早川 数幸

新型コロナウイルスが5類感染症に移行され、スポーツの声出し応援や地域の祭りの復活、賑わいを取り戻した街並みなどのニュースを聞くようになり、コロナ前の日常が復活しつつあることを実感する日々です。一方、電車内ではまだ多くの方がマスクを着用しており、油断できない状況であることも意識させられます。このような中でスタートする令和5年度の事業は、これまでの実績に加え、コロナ禍での経験も活かしながら、新しいスタイルの研究会組織を模索する必要があります。

名古屋市教育委員会の学校教育努力目標は、前年度に続き「ともに学び、自分らしく生きる」です。「個別最適な学び」「協働的な学び」「安全で幸せな居場所となる学校づくり」に向けて、組織改編も含め様々な取り組みが行われています。そこに、学校事務職員の出来ることが必ずあります。学校事務職員ならではの視点で、他の職員とともに、さまざまな場面に関わることが、学校の質を高めることにもつながるはずです。ただし、これを実現するためには、現在の業務の見直し、スキルアップ、人や団体との関係構築など、多くの課題に取り組む必要があります。最近では、対話型AIの登場によって、現在の学校事務職員が主として行っている処理業務の多くがAIで対応可能となるということが、いよいよ現実味を帯びてきたように思います。このような課題を解決し、学校事務職員の不可欠性を示すために、そろそろ次のステージを目指す時期が近づいているのではないのでしょうか。名事研では、そのような課題解決に向けて、少しずつでも支援を提供できるように、取り組んでいきたいと思えます。そして、学校事務職員という職が働きがいのある職と誰もが思えるように示していきたいと思えます。



会員のみなさまおよび関係機関のみなさまにおかれましては、今後ともご支援をお願い申し上げます。

令和5年度の名事研事業計画について

副会長 小島 啓治

本会事業は、定期総会で議決された令和5年度事業計画に沿って展開していきます。事業を展開する際には、コロナ禍前の形に戻していくもの、コロナ禍における経験を生かして変えていくことを十分に検討します。昨年度に設定した名事研テーマ「あゆみをとめない～変わる学校に新たな価値を創造する学校事務～」を具体的に実現するために、会員を始めとする事務局、各専門部、特別委員会が連携して事業を進めたいと考えています。

また、昨年度の研究大会において、職務研究から実践研究への転換が必要であると明確に指摘されました。そのため、今年度は「実務に即した実践研究」に舵を切り、私費をテーマに研究を行うこととしました。同時に、以前から検討していた「名事研の今後のあり方」を一步進め、「名事研組織や大会のあり方を提案すること」を事業計画に明記し、事務局と研究部が連携して活動します。

名事研は時代に即した価値ある組織であり続けるために、そしてその活動が持続的に発展する組織となるために、会員の協力と理解を得るために、説明に努めていきます。

専 門 部 紹 介

事務局

事務局長 小島 啓治

事務局では、名事研が活発かつ円滑な活動を行うため、会の運営や調整をしています。主に事業計画の策定や研究大会の運営、学校事務職員名簿等の発行物の作成、内外組織との連絡調整や連携を担っています。

今年度は、これからの名事研のあり方について、昨年度までに協議・検討してきたことを形にし、会員の皆さまに提案することを事業計画に明記しました。学校事務や名事研を取り巻く様々な環境の変化に適応しながら、会員一人ひとりがやりがいをもって研究会活動に関わることができる組織となれるよう、ぜひ積極的にご意見をお聞かせください。みなさまのご協力をお願いいたします。

研修部

研修部長 辻 知弥

研修部では、全体研修会や小規模研修会「事務-Gym」（じむジム）の企画・運営、自主研修資料の作成・更新による研修の支援などを通して、学校事務職員の資質向上のサポートを行います。

昨年度から集合しての研修会も令和元年度ぶりに復活しました。グループワークで意見を交換し合う受講者や、身振りを交えてお話しされる講師の姿を見ると、実際に顔を合わせて行う研修会の魅力をあらためて感じました。ただし、知識を得ることに特化したような研修については、オンラインなど多様な形を検討する必要を感じています。

みなさまの現場で活かすことのできる、より良い研修会を企画していきたいと考えています。

研究部

研究部長 土井 裕子

何か疑問に思った時、みなさんはどうしますか？ 最近では、スマホやパソコンを使って、ネット検索することも多いですね。ネットには情報があふれ、すぐに答えが見つかる今だからこそ、画面越しではなく、現場で実際に「感じた」ことを大切にしながら、「そもそも、これは正しいのか？ 本当はどうあるべきか？」を「考える」ことが大切ではないでしょうか。

今年度、研究部では、学校現場にいる学校事務職員だからこそ気づくことについて、「本当はどうあるべきか？」を考えていきます。

他の誰でもない、私たち自身で、名古屋の学校事務がより良くなるよう考えていきませんか？ 研究活動に積極的なご協力をお願いいたします。

情報部

情報部長 松葉 篤典

情報部では、名事研活動についてみなさんに知っていただくため、名事研ニュースや「じむけん!」の発行、HP更新等を行っています。

また、会員の実務支援を行うため、昨年度は名簿の作成を効率化する「就学援助名簿」、就学援助ファイルの提出時に活用できる「ファイル名変更ツール」、「特殊勤務記録簿（主任手当）作成ツール」を作成するとともに、事務効率化ソフト「すいすい予算管理」についての説明動画を制作しました。さらに、会員に対して情報調査を行い、各学校での事務の実情を分析しています。

今年度も名古屋の学校事務職員が、より良い仕事を行っていくため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。